

## 日南町に最新鋭の林業用コンテナ苗木育成施設が完成



令和3年12月に日南町阿毘緑で、林業用のコンテナ苗木を生産する「日南町樹木育苗センター(株式会社ウッドカンパニーニチナン)」が完成しました!

この施設は、全国でも珍しい最新の設備を完備しており、従来よりも、安定的に効率よくカラマツ、スギ等の苗木を生産し植林現場へ届けられるようになることから、皆伐再造林等、SDGsの取り組みへの貢献が期待されます!



戦後植林された森林が全国的に伐採時期を迎えており、鳥取県でも伐採・再植林が進められていますが、植栽に必要な苗木は不足しています。

### 「日南町樹木育苗センター」はどんな施設?



隣接する旧阿毘緑小学校の体育館や旧阿毘緑幼稚園を改装し、倉庫や事務所として再活用されています。

本施設では、最新の設備により令和5年にはカラマツ、スギ、ヒノキ等の苗木を数人の従業員で年間12万本生産される予定です。今後も段階的に設備を拡充され、年間生産量約20万本を目標にされています。



#### 施設の“ここがすごい”

- 1 「種子選別機」で優良な種子のみを自動選別し播種することで、安定生産を実現。(発芽率30%→80%)
- 2 「発芽室」で温度や明るさを管理することで、一度に最大約14万個体の発芽が可能。
- 3 「ムービングベンチ」(苗木を乗せた育苗用の専用台が可動)で、苗木1,200本を1人でも簡単に移動可能。
- 4 温度管理や散水などをコンピューター制御で管理し、スマートフォンで簡単に確認可能。
- 5 徹底した温度管理により、従来2~3年かけて生産されていた苗木を1年程度で出荷可能。

コンテナ苗とは、コンテナ容器の中(写真①)で育苗された苗で、容器から取り出しても、土と根の形が維持されます(写真②)。林業では従来、根から土を振るい落とした裸苗(写真③)を用いますが、コンテナ苗は、コンパクトで持ち運びが良い、乾燥に強く根が傷みにくいので植栽時期を選ばない等の特長があります。



## 日野郡のたたら

### たたら製鉄の技術を伝える「鉄山秘書」の著者 下原重仲恭敬事業が行われました



奥日野のたたら製鉄は、幕末から明治にかけて日本の近代化に大きく貢献しました。日野郡には、多くの製鉄遺跡があることから、調査研究や各種観光面での取り組みなど、たたら製鉄の歴史的価値を検証する民官の取り組みが続けられています。

今回のテーマとなった「鉄山秘書」<sup>※1</sup>は、たたら研究の必読書とされています。江府町出身の鉄山師、下原重仲が著し、1784(天明4)年に完成しました。昨年11月5日が下原重仲の200年目の命日にあたることから、江府町文化協会及び伯耆国たたら顕彰会の主催により11月21日に下原重仲恭敬<sup>※2</sup>ツアー&フォーラムが開催されました。今回は、その模様を御紹介します。

#### 恭敬ツアー

午前、江府町内をフィールドに下原家がたたら製鉄を行ったとされる地を巡る恭敬ツアーが行われました。

下原家の初代は、津山藩主の森忠政の孫と言われ、江府町でたたら製鉄を始め、後に町内の分家で生まれた重仲も鉄山経営に励みました。「鉄山秘書」は、その経験を基に著されたと伝えられています。

ツアーでは、江府町内に残る重仲ゆかりの地を踏査しました。参加者は、それぞれ当時の状況に思いを巡らせているようでした。



11/21現地踏査(恭敬ツアー)

#### 恭敬フォーラム



11/21パネルディスカッション(恭敬フォーラム)

午後は、会場を江府町役場に移し、島根県古代文化センター長の角田徳幸氏の基調講演、地元江府町の歴史研究家の橋谷俊二氏による調査報告、江府読み聞かせの会有志や江府町立図書館の中島昭生司書による朗読、パネルディスカッションで構成された恭敬フォーラムが開催されました。

フォーラムで紹介・解説が行われた「鉄山秘書」は、たたら製鉄に関連する項目毎に全8巻で構成されますが、その原本の所在は明らかになっていません。江戸時代に大坂の鉄商人により筆写された写本が、東京大学、筑波大学、九州大学等に残されています。「鉄山秘書」が記された理由は明らかではありません。一説では次世代にたたら製鉄の経営ノウハウや技術を残すことが動機だったとも言われています。

また、近年、「鉄山秘書」完成の16年前に書かれたとされる「鉄山要口訳」(日野町所蔵)も見つかっており、今回のフォーラムでは「鉄山要口訳」は、後に孫の為吉が筆写したことや、その内容が「鉄山秘書」とは異なり、経営が中心となっていることが紹介されるなど、いくつかの新しい話も明らかにされ、歴史の一端を知ることができる貴重な機会となりました。

※1 鉄山秘書:現代の研究者が掘り所とするたたら製鉄の技術を今日に伝える貴重な文献資料。 ※2 恭敬:つつしみうやまうこと

たたら歴史を地域の財産として後世に伝えることの大切さについても改めて感じる事ができた機会となりました。

鉄山秘書の表紙及び背景の画像は、「東京大学工学・情報理工学図書館」に所蔵されているものを提供していただきました。